

ふえーぬ風

発行 〒901-1105
 沖縄県南部農業改良普及センター
 南風原町字山川517
 TEL:(098)-889-3515
 FAX:(098)-835-6010

糸満市マンゴー産地の育成

地域農業振興総合指導事業を活用した地域活性化

当普及センターでは地域農業振興総合指導事業を活用して、地域活性化や地域リーダーの育成に取り組んでいる。一方、糸満市は平成28年にマンゴーの拠点産地に認定されており、今後は栽培技術の平準化や若手農家の育成、延いては産地活性化や産地ブランド力の向上を目指している。そこで昨年度から調整を始め、今年度より3年間、糸満市マンゴー産地の活性化を目指し、産地協議会を中心とした総合的な支援を行うこととした。

まずはブレインストーミングで産地の意向を把握

「糸満市のマンゴー産地を盛り上げるためには何をすべきか」をテーマに意見を出し合った。

優先度	技術向上			販促	加工	他
	栽培	省力化	最先端			
高	15人	0人	0人	6人	1人	3人
中	9人	1人	1人	8人	3人	2人
低	9人	0人	0人	4人	4人	1人
計	33人	1人	1人	18人	8人	6人

←結果
 産地がやるべき事に、
 約50%が技術向上、
 約27%が販売促進
 と回答した。



農家代表や関係機関を招集し事業推進会議を開催

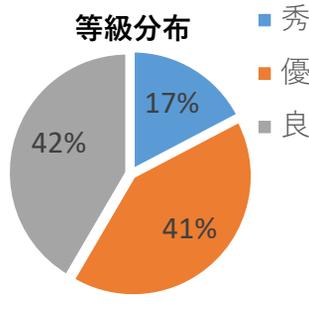
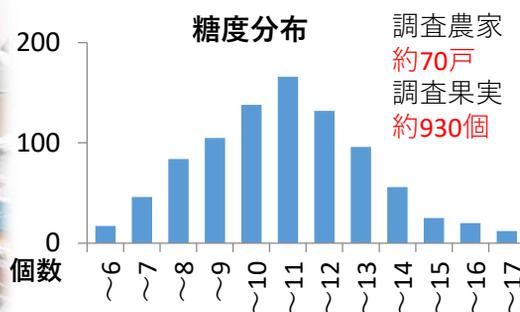
技術・販売支援中心の年間計画書を作成し、事業推進会議で産地の活動方針等について議論した。また、11月には上半期事業中間報告と下半期計画見直しについて意見交換を行った。



果実品質現状調査 in ファーマーズ「うまんちゅ市場」

7月中に出荷された果実を調査。想定よりも病害果は少なく秀品率は高かった。

調査項目
 糖度、等級
 重量、価格



糖度向上をテーマにした講習会



地域リーダー育成研修 (静岡県)



超低コスト自作AI選果機の視察。
 視察したのはキュウリ用だが、見た目
 で判別可能な選別なら応用可能。



(普及企画班 長浜)

家族で営農・生活目標について話しあってみませんか？ — 家族経営協定の締結にむけて —

家族経営協定とは

- ・ 経営方針（売り上げ目標など）
- ・ 役割分担（夫、妻、子供の役割など）
- ・ 就業条件（労働報酬、休日など）
- ・ 生活運営（子育てや家事分担など）

わが家の営農・生活目標を定め目標実現のために取り組みたい内容について、文章化して明確化する事により家族全員が意欲を持って取り組めるようにしたものです。

家族がお互いに個性や能力を認め合い、かけがえのない対等な仲間として農林漁業の経営を共同経営的に営むためのツールです。法人経営においてもワーク・ライフ・バランスの実現に有効な手段です。

取組農家の紹介「わが家の夢（目標）の実現について」

【普天間ご夫妻】

- 市町村：南城市
- 経営品目：インゲン
- 営農年数：28年
- 経営形態：家族経営
(ご夫婦と子)
- 就農のきっかけ
34歳で重機屋を脱サラ
し親の跡を継ぐ。



やっている事を協定書として、見える形にしただけです。

休暇も取れて年1回の旅行に行く事もできてます。

息子に経営を譲る時は協定を結びたいです。



営農計画をしっかりと立て実践できました。
農業収入だけで3人の子供を大学まで行かせる事ができました。



家族経営協定の制度的メリット

家族経営協定を締結し、経営参画している配偶者や後継者等には下記の様な政策的支援があります。

- ・ 認定農業者制度における共同申請
- ・ 農業者年金の保険料の国庫補助
- ・ 農業改良資金等の借り受け
- ・ エコファーマー制度
- ・ 農林水産参加表彰行事における夫婦連名表彰



協定締結数

沖縄県では平成7年度より家族経営協定の取り組みが始まり、平成30年度時点での締結数は累計635件で、南部地区は累計290件となっております。今年度も新たに締結した農家があります。

HACCP（ハサップ）が義務化されます！

HACCP（Hazard Analysis and Critical Control Point）とは

食品製造の原料受入から出荷までの各工程ごとに、危険なポイントで危害防止につながる監視・記録をしていく工程管理システムのことです。

食品衛生法が改正され、HACCPが義務化されます

- ・2020年6月までに義務化されます。
- ・HACCPの義務化は、原則全ての食品等事業者が対象となります。
- ・事業者は「HACCPに基づく衛生管理」または「HACCPの考え方を取り入れた衛生管理」のどちらかの基準で衛生管理を行うこととなります。
- ・事業者は、基準に従い衛生管理計画を作成し、計画に沿って衛生管理を実行、記録することが求められます。

■HACCPに基づく衛生管理 ※HACCP認証の取得は問わない。

対象事業者：大規模事業者、と畜場、食鳥処理場

衛生管理規格：HACCP 7原則12手順の厳守

(手順1～5)

HACCPチーム編成、製品特徴確認、用途・対象の確認、製造工程図の確認、製造工程図の現場確認

(原則1～7)

危害要因分析、重要管理点の決定、管理基準の設定、モニタリング方法設定、改善措置の設定、検証手順の設定、文書化及び記録保管の設定

■HACCPの考え方を取り入れた衛生管理

対象事業者：小規模事業者（飲食店、給食施設、惣菜製造、弁当製造など）

衛生管理規格：手引書を参考に、簡略化された管理の厳守

手順1 製造工程表の確認

手順2 衛生管理計画の作成

- ①一般的衛生管理のポイントの確認
- ②重要管理のポイントの確認

手順3 実施・記録

計画や記録により、
衛生管理を「見える化」
することが大切です。

【加工記録簿の例】：①加工作業工程チェック表
②清掃管理点検表③冷蔵庫・冷凍庫・倉庫などの
温湿度管理チェックシートなどがあります。



自信を持って商品を製造しましょう

手引書については下記サイトを参照してください。

厚生労働省ホームページ 「食品等事業者団体が作成した業種別手引書」

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000179028_00001.html

豚熱 (CSF) ・ アフリカ豚熱 (ASF) 関連

CSF (豚熱) ・ ASF (アフリカ豚熱) の侵入防止対策を徹底しましょう！

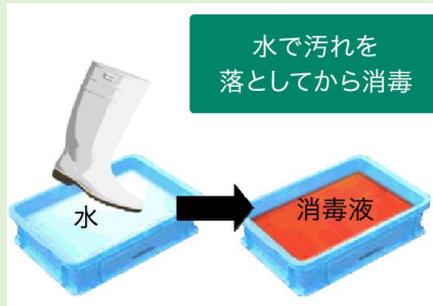
令和2年1月8日から2月25日までに沖縄県うるま市及び沖縄市で6例の豚熱 (CSF) の発生が確認され、防疫措置が実施されました。

また、豚熱 (CSF) に加え、日本周辺国で発生が確認されているアフリカ豚熱 (ASF) の国内への侵入リスクが高まっている事を踏まえて、豚飼養農場において飼養衛生管理の徹底と、家畜の健康観察によるリスク管理をお願いします。

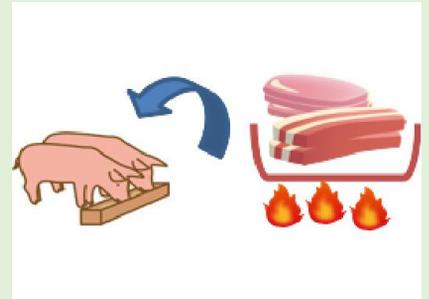
衛生管理の徹底



関係者以外の農場への立入を禁止



農場 (畜舎) に出入する際は、消毒を実施



飼料に生肉を含むまたは可能性がある場合は、十分に加熱処理

出典：農林水産省HPより

予防対策の重要ポイント



出典：農林水産省HPより

豚熱 (CSF) ・ アフリカ豚熱 (ASF) 関連 (2)

< 発生予防対策の重要ポイント (抜粋) >

(ア) 人・物・車両によるウイルスの持込み防止

- ★ 衛生管理区域、豚舎への出入りの際の洗浄・消毒の徹底
- ★ 衛生管理区域専用の衣服、靴の設置と使用の徹底
- ★ 人・物の出入りの記録
- ★ 飼料に肉を含み、又は含む可能性があるときは、あらかじめ摂氏70度・30分以上又は摂氏80度・3分以上の加熱処理を徹底

(イ) 野生動物対策

- ★ 飼料保管場所等へのねずみ等の野生動物の排せつ物等の混入防止
- ★ 豚舎周囲の清掃、整理・整頓
- ★ 死亡家畜の処理までの間、野生動物に荒らされないよう適切に保管

出典：農林水産省HPより

飼養豚の健康観察

【豚熱症状】 特徴的な症状が無く気づきにくい疾病です
 発熱、食欲不振、元気消失、うずくまり、便秘に続く下痢、呼吸障害、流死産等の異常を早期に発見し、早期通報！
 にご協力をお願いします。中央家畜保健衛生所まで
☎098-945-2297 (24時間 365日)

オーツを育ててみませんか！

子牛育成用の購入乾草として知られるオーツ (エン麦) は、沖縄県内でも冬期に栽培できる一年生の牧草です。



播種適期 10月下旬～11月

種子代金例 5,720円/300坪

期待生草収量 3トン/300坪

※※※栽培の留意点※※※

・冠さび病の抵抗性遺伝子を持つ品種を選択する。

・軽い覆土や鎮圧によって、発芽率と初期生育を高めることで、増収を目指す。

(施肥など栽培の詳細は普及センターにご相談ください)

令和2年2月15日 南城市稲嶺にて撮影

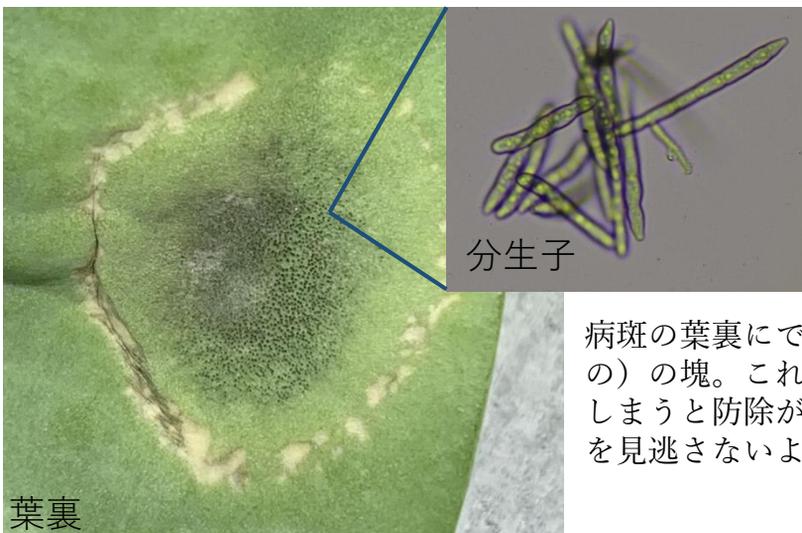
(地域特産振興班 細井、長谷)

予防散布、していますか？

トルコギキョウ斑点病

南部でも発生が確認されました

- ・沖縄県では2018年に中・北部で初発生した、比較的新しい病気
- ・葉に“すす”で汚れたような黒い斑点ができる(右の黄○)
- ・発生初期は丸い退緑斑
- ・下葉から病斑が出ることが多い
- ・多湿条件で発生することが多い
- ・新病害なので、登録農薬がほとんどない



病斑の葉裏にできる“すす”の部分は分生子（種のようなもの）の塊。これが飛び散って病気が広がる。“すす”ができると防除が難しくなるので、発生初期の病徴（退緑斑）を見逃さないようにする。

対策

- ①排水性・通気性をよくする
- ②定期的な薬剤の散布（ダコニール1000 登録あり）

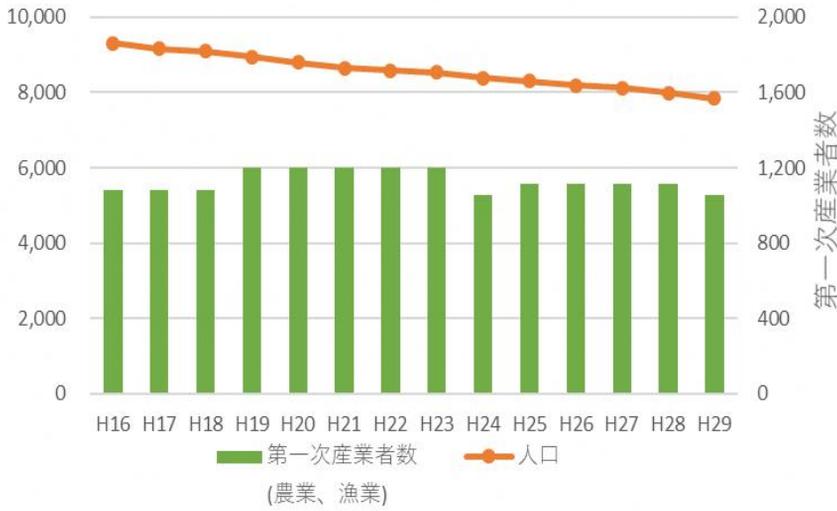
発生したら...

- ①直ちに発病葉を除去し、その場で袋に入れて圃場外に持ち出して処分する（圃場のそばで放置しないこと！ 発生源になります）
- ②普及センターかJA営農指導員に相談してください

離島情報 (久米島町)

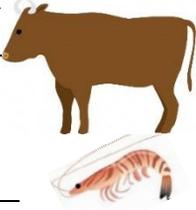
久米島町の農業概況について

人口および第一次産業者数の推移



人口と第一次産業者数のH16とH29年度の比較

年度	人口	第一次産業者数 (農業、漁業)
H16	9,299 人	1,082 人
H29	7,845 人	1,057 人
減少数	-1,454 人	-25 人
減少率	84%	98%



久米島町の人口は減少傾向にあり、H16年からH29年の間に84%(-1,454人)まで減少している。第一次産業者(農業、漁業)の人口も減少してはいるものの、98%(-25人)に留まっている。これは、肉用牛や車エビ、モズクの養殖業が好調であり、若い後継者が育っている事が背景にある。

農業の中心は「サトウキビ」！

平成29年度の品目別農家戸数はサトウキビ760戸、生産額も約11億円と最も高く、久米島町の農業はやはりさとうきびが中心となっている。しかし、さとうきび農家は高齢化が進んでおり、久米島町は国や県の事業を積極的に活用し、ハーベスターやトラクター等の機械導入を行い、高齢化や担い手不足に対応している。機械導入については、生産現場からの要望も多いことから、今後も継続して実施していく予定である。

品目別農家戸数(H29年度)



品目別農業生産額 (H29年度)



ハーベスターの台数と収穫率(面積)の推移



久米島町の農業基盤整備の状況

	水源整備	かんがい施設整備	ほ場整備
整備率	56.4%	44.1%	82.9%

久米島町は水源整備により大きなダムが4つあり、あわせてかんがい施設整備率が44.1%、ほ場の整備率も82.9%と、ハード面でも整備が進んでいる。

久米島は土地と水に恵まれ、農業に適した島だよ！



全国的に農家の高齢化や担い手不足が進む中、久米島町では基盤整備、農業機械の導入、草地造成、園芸施設導入等様々な事業を積極的に活用して農業振興を図っている。

新しいふえ～ぬ風吹いています -若手農家紹介-

「趣味はマンゴー栽培」 糸満市でマンゴーを栽培している農家さんを紹介します！

糸満市でマンゴー栽培を行っている山城裕樹さんを紹介します。

山城さんは、平成14年から会社員として働き、平成18年からお父さんと共に宜野座村でマンゴー栽培を始めました。その後平成20年に現在の糸満市に補助事業でハウスを導入し、現在はお父さんが宜野座村で、裕樹さんが糸満市でそれぞれ別々に栽培管理を行っています。

栽培管理の工夫点についてお伺いしたところ「ありすぎてとても話しきれない」ということではありましたが、大玉をつくるために実の数を絞ったり、花の時期には高温に当てないように日に何度もハウスの開け閉めを行ったりなど様々な工夫を行っていることが伺えました。

販売先は、市場、農産物直売所、通信販売、青果業者など多岐に渡っており、基本的に売れ残りは出ないとのこと。



山城裕樹さん

現在、糸満市で実施されている地域農業振興総合指導事業でも4名いる推進委員の1人として活躍しており、推進会議やリーダー育成研修等への参加を通じて、マンゴー産地の活性化に一役買っています。

(普及企画班 下城)

新規就農し、天敵の利用で安全・安心なピーマン産地に貢献！！

JAおきなわ具志頭支店野菜部会ピーマン専門部は、全ての部会員がエコファーマの認定を受け、適正施肥、太陽熱土壌消毒の実施や天敵利用による減農薬等の安全・安心なピーマン生産に励んでおり、沖縄県産ピーマンの7割(1,200t)を生産する産地です。

産地の主力品種の「ちぐさ」は、肉厚で柔らかな果肉と甘み特徴で、とても美味しいピーマンです。部会では、勉強会・現地検討会を毎月実施しており、若い担い手も熱心に活動しています。

今回紹介する喜屋武一樹さんは、平成30年に就農し、現在、ピーマンを30a栽培しています。とても勉強熱心で、真面目な青年です。

喜屋武さんは、就農前の栽培相談をきっかけに、当センターが主催する「ピーマン天敵利用リーダー講習会」を受け、就農1年目から天敵を使用し、慣行防除区と比較して天敵の効果を実証しました。天敵区では、2種の天敵を利用し農薬散布回数が減らせたことや、害虫の被害果がでない(慣行防除区では被害果は10%)という結果を、天敵リーダーの現地検討会、部会の講習会・現地検討会で、部会員に確認してもらい天敵普及に貢献しています。

さらに、県の天敵利用農家座談会では天敵利用したことでの薬剤散布と選果の省力等について報告しました。就農2作目の今期はピーマンの全面積で天敵を利用し、安全で安心な省力栽培を継続しています。



作業中の喜屋武一樹さん



喜屋武さんほ場にて天敵現地検討会

(園芸技術普及班 屋宜)